

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第93号

2021年10月12日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2021 年度全国研究大会を終えて

代表理事 南出眞助

本年度の大会は、6月12日(土)に福島大学で、13日(日)に福島市内のホテルで開催しました。プログラムはニューズレター№92を、シンポジウムの内容は皆様のお手元にお届けした「講演資料集」をご参照ください。

震災10年目にあたる2021年は福島でやろうというアイデアのもと、2年以上前から計画されてきた大会でしたが、直前まで対面かオンラインかの検討を続け、結局「併用」という一番大変な方式で実施することになりました。とりわけ会場校の村上雄一会計理事、当日の機器操作まで担当した塩原良和編集理事の負担が多かったことを申し添えておきます。福島大学には共催協力をいただきました。また同時通訳も入れたオンライン配信やホテルが使用できたのは、例年のことながら豪日交流基金(AJF)の助成金のおかげです。併せて御礼申し上げます。

さて1日目は、理事会に続き、川端浩平会員のコーディネートによる「アーティストトーク」から始まりました。シンポジウム1ではオーストラリア側2氏を含む3氏がオンラインで参加され、会場には司会を含む3氏が登壇され、画面を切り替えても応答にほとんど違和感のない、密度の高いディスカッションが展開されました。その模様は動画として記録・公開されたので、ご覧になった会員も多いと思います。

続く2日目午前の一般研究発表は、第1分科会3件、第2分科会2件の発表がすべてオンラインとなり、ホテル会場から配信されました。総会后、午後の「シンポジウム2」ではオーストラリアから2氏がオンラインで参加され、会場には司会を含む2氏が登壇されました。

このように併用開催は世話役の負担も大きいのですが、同時に「大会」の新しいスタイルを提示できたかもしれません。オンラインなら発表者の出張に伴う時間・労力・費用が節減でき、会員も遠方から参加できます。オンラインも含めた延べ参加者88名という数字は、決して例年に比べて小さいものではありません。

2. 総会報告

日時：2021年6月13日(日) 13:00~13:40

場所：オンライン会議システム(Zoom)を利用したオンライン会議、ならびにザ・セレクトン福島西館3階 達太良 I

議事に先立ち川端浩平会員が議長に選出された。

冒頭、南出眞助代表理事より挨拶があった。

【報告事項】

1. 2021年度一般会務報告

堤理事(企画)より、企画(全国研究大会、AJF助成金申請、関西・関東例会)について、資料に従って報告があった。

2. 編集担当理事からの報告

塩原理事(編集)より、学会誌『オーストラリア研究』第34号とEBSCOデータベースについて、資料に従って報告があった。

3. 理事の交代について

南出代表理事より、関西例会担当理事として鎌田理事が就任することについて報告があった。

【審議事項】

1. 2020年度決算報告および2021年度予算案
村上理事（会計）より、資料に従って説明があり、2020年度決算報告、21年度予算案が承認された。また福嶋監事、加賀爪監事より、2020年度会計が適正かつ正確であることが報告された。
2. 2022年度全国研究大会開催校、およびAJF助成金申請について
堤理事より、資料に従って説明があり、承認された。
3. 終身会員制度について（再提案）
永野理事（総務）より、資料に従って説明があり、承認された。
4. 入退会者について
永野理事より、資料に従って説明があり、承認された。
5. 理事及び監事の任期の変更について
南出代表理事、ならびに永野理事より、理事及び幹事の任期を2年とする学会会則の改正案について説明があり、承認された。なお改正に伴い、代表理事及び副代表理事の任期も3年から2年となることも確認された。

3. 第11期第5回理事会報告

日 時：2021年6月12日（土）10:00～12:00

場 所：オンライン会議システム（Zoom）を利用したオンライン会議、ならびに福島大学行政政策学類棟2階大会議室

出席者：藤岡伸明、藤田智子、濱野健、一谷智子、鎌田真弓、加藤めぐみ、栗田梨津子、湊圭史、南出眞助、村上雄一、永野隆行、長友淳、塩原良和、杉田弘也、津田博司、堤純、山内由理子（以上、理事、ABC順）、福嶋輝彦、加賀爪優（以上、監事）

【報告】

1. 堤理事（企画）より、2021年度全国研究大会（福島大学）、およびAJF助成金について、2020年度全国大会（北九州市立大学）向けに給付されたAFJ助成金の全額を2021年度全国研究大会の実施予算に流用した旨の報告があった。
2. 堤理事より、2022年度全国研究大会開催校、およびAJF助成金申請について、2022年度全国研究大会（関西学院大学：2022年6月18～19日）のためのAFJ助成金申請書が提出され、現在審査結果待ちであることが報告された。また、12月の理事会で2023年度全国大会の開催校を決定する必要があることが確認された。
3. 南出代表理事より、関西・関東例会の開催について、昨年度地区例会は中止された旨の報告があった。
4. 塩原理事（編集）より、学会誌の発行について、第34号が発行されたこと、第33号までのコンテンツがJ-STAGEに掲載された旨の報告があった。また、今回は優秀論文賞の該当者がなしとの決定がなされたこととその経緯についての説明があった。なお、査読の結果を受けて投稿論文の字数が規定数を超えた場合の取り扱いについて質問があり、今後検討を進めるとの回答があった。
5. 南出代表理事より、理事の交代について、昨年12月に鎌田理事より代表理事を途中交代し、入れ替わりで鎌田理事が関西例会担当理事に就任する旨の報告があった。

【議題】

1. 村上理事（会計）より、2020年度決算について、コロナ禍のため、事業費支出が大幅に抑えられた一方、今年度から単式簿記への移行に伴い、昨年度の学会誌印刷費を今年度決算に含めたため、当初予算より黒字決算となったとの報告があった。また、2021年度予算案について、黒字になる見込みではあるが、引き続き厳しい状況であることが確認された。2020年度決算について、福嶋監事、加賀爪監事より適正に行われたとの報告があった。審議の結果、2020年度決算、ならびに2021年度予算が承認された。
2. 南出代表理事、永野理事（総務）より、昨年度の理事会および総会で承認された終身会員制度について、運用面での問題改善のため、趣旨は変更せずに、対象と会費について変更を加えた改訂案が提案され、了承された。
3. 塩原理事より、EBSCOデータベースの学会誌論文データの提供について、バックナンバーは掲載せず、学術論文のデータを提供することによって生じるロイヤリティは学会に寄付するという規定を作る方向

で検討することが確認された。

4. 永野理事より、入会3名、退会3名、退会予定7名（会費未納による退会）に関する提案があり、承認された。

4. 第4回優秀論文賞 選考結果報告

優秀論文賞選考委員会
委員長 有満保江

第4回優秀論文賞の選考委員会では、2020年4月9日に第一次選考が、4月27日に第二次選考が実施された。第一次選考では上位2本の論文が投票によって選出され、第二次選考では上位2本の論文のなかから優秀論文が選出される予定であった。しかしながら、今回の選考においては、いずれの論文も真摯な研究姿勢が見られる好感の持てるものではあったが、突出して優秀論文賞に該当するものがなかった、という結論に至った。この結論に至った経緯について以下に説明し、今回の優秀論文の選考委員会の講評とする。

今回の優秀論文賞の対象は、『オーストラリア研究』第33号(2020)に掲載された論文3本、第34号(2021)に掲載された論文2本の計5本であった。扱われたテーマは、福祉・歴史・教育・政治政策・生命倫理など多岐の分野にわたるものであった。選考委員会では投票を行う前に、優秀論文を決定するための基準について議論を行い、次の二点について合意を得た。第一に論文が専門分野の見地から十分な考察がなされていること、第二に投稿規定が遵守されていること、の二点である。優秀論文は、これらの基準が満たされていなければならないとした。

その後、慣例の手順に則り第一次選考が行われ、5本の論文に順位がつけられ、上位2本の論文が選出された。第二次選考に残った論文はどれも優秀な論文であったが、上位三位までの点数が拮抗していたため、選考委員会は今回に限り上位三位までを第二次選考の候補とした。さらに「該当なし」という選択肢を加えることになった。そして計5名の選考委員（1名が公務のため欠席）による投票が行われ、その結果「該当なし」ということになった。

以上のような経緯を経て、今回は大変残念な結果となったが、候補論文はどれも優れた論文であったことは選考委員の一致するところである。しかし、全体として横並びの印象が強く、ひとつの優秀論文を選ぶ決手に欠けていたといえよう。論文のなかには、意欲的なテーマに挑戦し、将来が期待される萌芽的論文も見られた。今回の候補論文が、今後より発展的な成果をあげることを期待する。

5. オーストラリア学会財務表 2020年度決算

収支決算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(単位:円)				
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用益	1,000	14	△ 986	郵貯利息(8+6)
②受取会費	1,400,000	1,355,000	△ 45,000	2018年度会費 13,000 2019年度会費 77,000 2020年度会費 1,252,000 2021年度会費 13,000
③雑誌販売収入	10,000	6,285	△ 3,715	
④大会補助残金	0	0	0	
⑤その他	0	0	0	
事業活動収入計	1,411,000	1,361,299	△ 49,701	
2. 事業活動支出				
①事業費				
大会及び研究会旅費補助等	120,000	0	△ 120,000	
国際学会派遣事業費用	140,000	0	△ 140,000	
事業費計	260,000	0	△ 260,000	
②管理費				
印刷費	300,000	573,100	273,100	2019年度学会紀要 253000 2020年度学会紀要 320100
会議費	45,000	1,060	△ 43,940	前年度旅費補助未払い分
消耗品費	5,000	0	△ 5,000	
通信費	120,000	57,343	△ 62,657	振込手数料4822円含む
謝金	30,000	39200	9,200	英文校閲 19200 査読 5000×4
業務委託費	640,000	497,085	△ 142,915	
学会賞賞品購入費	0	0	0	
雑費	10,000	0	10,000	
管理費計	1,150,000	1,167,788	37,788	
事業活動支出計	1,410,000	1,167,788	△ 222,212	
事業活動収支差額	1,000	193,511	192,511	
II 投資活動収支の部				
III 財務活動収支の部				
IV 予備費支出の部				
当期収支差額	1,000	193,511	192,511	
前期繰越収支差額	5,359,095	5,359,095	0	
当期繰越収支差額	5,360,095	5,552,606	192,511	2021年3月末現在 入金口座残高 5154753 支払口座残高 397853

財産目録
2021年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手許現金		0
	普通預金	運転資金として	
	新口座		397,853
	振替口座	運転資金として	
	郵便振替口座		5,154,753
流動資産合計			5,552,606
資産合計			5,552,606
(流動負債)			
未払金			0
前受会費		翌事業年度会費	13,000
流動負債合計			13,000
負債合計			13,000
正味財産			5,539,606

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

2021年 月 日

(印)
(印)

2021年度予算

収支予算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

単位:円

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	100	1,000	△ 900
②受取会費・入会金	1,350,000	1,400,000	△ 50,000
③雑誌販売収入	10,000	10,000	0
④その他	0	0	0
経常収益計	1,360,100	1,411,000	△ 50,900
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	120,000	120,000	0
国際学会派遣事業費用*	140,000	140,000	0
事業支出計	260,000	260,000	0
②管理費			
印刷費	350,000	300,000	50,000
会議費	45,000	45,000	0
消耗品費	5,000	5,000	0
通信費	120,000	120,000	0
謝金	30,000	30,000	0
業務委託費	430,000	640,000	△ 210,000
学会賞品購入費	10,000	0	10,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,000,000	1,150,000	△ 150,000
事業活動支出計	1,260,000	1,410,000	△ 150,000
事業活動収支差額	100,100	1,000	99,100
II. 投資活動収支の部			
	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
	0	0	0
IV. 予備費支出の部			
	0	0	0
当期収支差額	100,100	1,000	99,100
前期繰越収支差額	5,552,606	5,097,035	455,571
次期繰越収支差額	5,652,706	5,098,035	554,671

*海外学術大会参加助成制度細則(2017年6月18日総会承認)により、助成総額は年間最大30万円と定められている。

注:第11期第3回理事会(2020年6月13日)で了承されたとおり、国際文献社に業務委託していた会計業務を今年度から学会が引き受けたことに伴い、複式簿記ではなく、単式簿記による決算・予算となりました。(会計担当)

6. 2022 年度全国研究大会について・個別研究報告の募集

オーストラリア学会 2022 年度総会・全国研究大会は、6 月 18 日・19 日（土・日）両日に、関西学院大学にて開催予定です（社会情勢によってはオンライン開催となる可能性があります）。研究報告を希望される会員は下記の Web フォームに必要事項を明記の上、**2022 年 1 月 16 日（日）**までにお申し込みください。

<https://forms.gle/pkP9DB1eBnZnVRSF8>

ご質問は以下のアドレスまでお願いいたします。

hamano@kitakyu-u.ac.jp（濱野 健、全国大会担当理事）

7. 地域研究会（関西例会）の開催について

第 30 回地域研究会（関西例会）は、当初の予定の 2020 年 3 月 25 日以降、延期中です。今後の開催日程が決まれば、学会の「会報」だけではなく①会員向けメール、②公式ホームページ、③フェイスブックなどでも案内しますのでご承知ください。

8. 終身会員制度について

会員として長年にわたり本会の発展に多大な貢献をしたことへの感謝と、学会活動への参加継続を目的に、終身会員制度を導入することが、2021 年度全国研究大会に併せて開催された総会にて承認されました。なお終身会員は呼称であって、会員種別ではありませんのでご注意ください。2022 年度分会費から対象となります。

【対象者】

会員のうち、次の(1)、(2)いずれにも該当し、本人からの申し出があった方を対象とします。

- (1) 一般会員（院生を除く）で、10 年以上の会員歴を有し、当該年度から遡って 10 年間に於いて会費を完納している方
- (2) 当該年度中に満 70 歳以上となる方

【資格】

終身会員の資格は、正会員と同等です。

【会費】

終身会員となるには、会費 5 年分に該当する額 [¥40,000] を一括納入していただく必要がございます。なお終身会員の会費を納入いただいた後に退会をしても会費は返却できません。

【お申し込み方法】

- (1) 終身会員制度の利用を希望される方は、1 月 1 日～2 月末日までに事務局にメールにてその旨をご連絡ください。その際に①お名前、②生年月日、③現住所をお知らせください。
- (2) 事務局が 10 年間の会費納入歴を確認し、制度適用の可否をご連絡いたします。
- (3) 会費の振込用紙をご利用いただき、3 月末日までに会費をお支払いください。

【その他】

終身会員になってから当初 5 年間は『オーストラリア研究』をご登録住所に送付させていただきます。ただし 6 年目以降は毎年、印刷物をお送りする際、次年度以降も印刷物の送付を希望されるかどうかを確認させていただきますので、印刷物に同封の返信用はがきにてご連絡ください。年度内最終日までにお返事がなかった場合には、「印刷物送付の希望なし」と見なして、印刷物の送付を停止させていただきます。あらかじめご承知おきください。

【お問い合わせ先】

ご質問のある方は学会事務局 (asaj-post@bunken.co.jp) までご連絡ください。

9. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2021 年 5 月に年会費を納入しても、2020 年度未払いの場合、それは 2020 年度の会費となります。すなわち、2021 年度は未納ということになります。また 2019、2020 年度未払いの場合、2019 年度分の会費納入になります。

＜会費が未納となっている会員の皆様へ＞

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2020 年度を含め最多 3 年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2021 年 3 月発行、第 34 号）までをお送りしております。事務局では 3 年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

10. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019 年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行していましたが、2020 年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

11. 『オーストラリア研究』投稿募集・投稿要領改訂および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。2021 年 8 月 2 日付で投稿要領を改訂しました。改訂版の投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください (<http://www.australianstudies.jp/publish/youroyou.html>)。投稿申込書もウェブサイトからダウンロードしてください。2023 年 3 月刊行予定の第 36 号の投稿は 2022 年 8 月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・塩原良和 (shiobara@law.keio.ac.jp) までお問い合わせください。

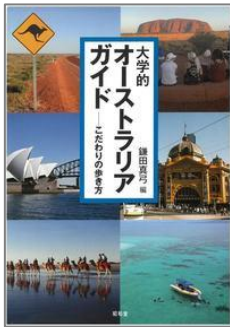
第 12 号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは 2021 年 10 月 30 日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL：03-6824-9372 FAX：03-5227-8631 Email：asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト：<http://australianstudies.jp/publish/index.html>

12. 新刊書のご案内



鎌田真弓(編)、『大学のオーストラリアガイドーこだわりの歩き方』昭和堂、2021年6月刊行、A5判、320頁、2,750円(税込)

15名の執筆者が、広大なオーストラリアの姿を重層的・多面的に描き出す。かの大陸を行き交い、住まい、社会を創り上げてきた人々の視点から、国境で分断されている既存の地域概念の再考をも問いかける。

写真と説明文の出典：昭和堂ウェブサイト

<http://www.showado-kyoto.jp/book/b561931.html>



梶垣伸次・奈須祐治(編著)、『ヘイトスピーチ規制の最前線と法理の考察』法律文化社、2021年10月刊行、A5判、192頁、3,520円(税込)

ヘイトスピーチ研究の蓄積を踏まえ、なおも積み残されている論点を掘り下げるにより理論的課題に応えるとともに、実務上、次々と現れる新たな課題に応える論考集。現行法の射程と限界の考察はもちろんのこと、議論の蓄積が豊富な諸外国の理論の最前線を踏まえた比較法研究も取り込み、新たな理論構築をめざす書であり、オーストラリアにおけるヘイトスピーチ人権法の可能性についても検証されている(第6章 ヘイトスピーチの人権法による統制の可能性、奈須祐治著)。

写真と説明文の出典：法律文化社ウェブサイト

<https://www.hou-bun.com/cgi-bin/search/detail.cgi?c=ISBN978-4-589-04175-3>

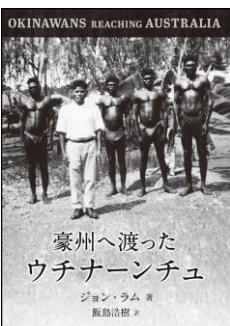


市川 薫(編著)、『語られぬ他者の声を聴く——イギリス小説にみる〈平和〉を探し求める言葉たち』開文社出版、2021年3月刊行、A5判、352頁、3,300円(税込)

本書は主として20世紀以降のイギリス小説に着目し、そこにみられる「戦争」あるいは「平和」をめぐる名状しがたい言葉を探る論考を集めたものである。英米SF小説の端緒から20世紀を代表するV.ウルフやG.オーウェル、そして21世紀の今、精力的な活動をしているM.アトウッド、P.バーカーなどの作品論に加えて、オーストラリアからは旧日本帝国陸軍によって、泰緬鉄道建設に動員された捕虜の体験を描いたリチャード・フラナガンのブッカー賞受賞作『奥のほそ道』をめぐる論考が収録されている(第6章 戦争文学と「人間をまもる読書」——文化批判として読むリチャード・フラナガンの『奥のほそ道』、一谷智子著)。

写真と説明文の出典：開文社出版ウェブサイト

<http://www.kaubunsha.co.jp/books/view/553>



ジョン・ラム(著)、飯島浩樹(訳)、『豪州へ渡ったウチナーンチュ』沖縄教販、2021年8月刊行、2,420円(税込)

1910年代から1960年代まで、沖縄からオーストラリアに渡った人々の足跡を、貴重な当時の写真や詳細な記録資料をまとめた一冊。

写真と説明文の出典：沖縄教販ウェブサイト

http://www.o-kyohan.co.jp/products/detail.php?product_id=2134

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当
TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1-1 獨協大学外国語学部 永野隆行研究室気付
TEL : 048-943-1242 Email : tnagano@dokkvo.ac.jp
会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 藤岡伸明 (静岡大学) / 編集協力 : 小野塚和人 (神田外語大学)]